

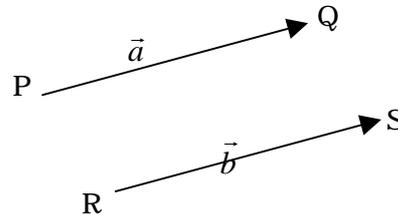
# 第1章 ベクトル

## 1.1 幾何ベクトル

長さ, 温度, 時間などは, それぞれ単位を定めておけば1つの実数で表わされる. このような量を**スカラー scalar** という. これに対して, 力, 速度などは大きさだけでなく方向をもつ量である. 大きさと向きをもつ量を**(幾何)ベクトル**という.

幾何は付けなくても分かるときは省略して単にベクトルという.

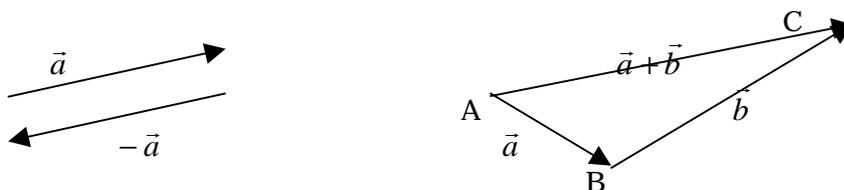
ベクトルを1つの文字で表すときは,  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}, \dots$  または  $a, b, c, \dots$  とする. ベクトルを**有向線分 directed segment** で表わすときは, 始点  $P$ , 終点  $Q$  を使って記号  $\overrightarrow{PQ}$  のように表す.



2つのベクトル  $\vec{a} = \overrightarrow{PQ}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{RS}$  について, 大きさ(長さ)と向きが同じならば**等しい equal** といい

$$\vec{a} = \vec{b} \quad \text{または} \quad \overrightarrow{PQ} = \overrightarrow{RS}$$

と表す. ベクトル  $\vec{a} = \overrightarrow{PQ}$  の大きさを,  $|\vec{a}|$  または  $|\overrightarrow{PQ}|$  で表わす. 大きさが1のベクトルは**単位ベクトル unit vector, identity vector** という. ベクトル  $\vec{a} = \overrightarrow{PQ}$  に対して, ベクトル  $\overrightarrow{QP}$  は大きさが同じであるが, 向きは反対である, このベクトルを  $-\vec{a}$  で表し,  $\vec{a}$  の**逆ベクトル inverse vector** という.



2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  に対して,  $\vec{a} = \overrightarrow{AB}$ ,  $\vec{b} = \overrightarrow{BC}$  のように有向線分で表わすとき, 有向線分  $\overrightarrow{AC}$  の表すベクトルを,  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  の**和 sum** といい,  $\vec{a} + \vec{b}$  で表わす. 始点と終点が一致したベクトルを**零ベクトル zero vector** といい,  $\vec{0}$  で表わす. これは大きさが0で向きは考えない.

## 2 第1章 ベクトル

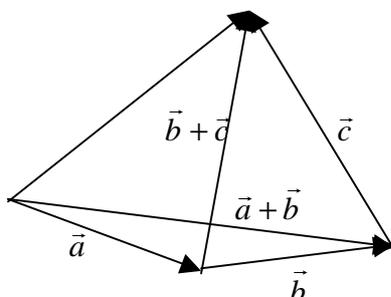
すべてのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  についての次の基本性質が成り立つ .

$$\vec{a} + \vec{0} = \vec{0} + \vec{a} = \vec{a}$$

$$\vec{a} + (-\vec{a}) = (-\vec{a}) + \vec{a} = \vec{0}$$

$$\vec{a} + \vec{b} = \vec{b} + \vec{a}$$

$$(\vec{a} + \vec{b}) + \vec{c} = \vec{a} + (\vec{b} + \vec{c})$$

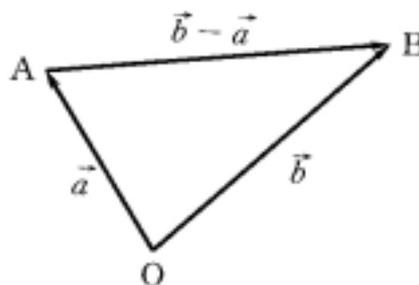


始点と終点が同じであれば, いちいち矢印の向きを確認しないで, 単純に加法が計算できる . 例えば

$$\overline{XY} + \overline{YX} = \overline{XX} = \vec{0} \quad \text{や} \quad \overline{AB} + \overline{BC} + \overline{CD} = \overline{AD} \quad \text{や} \quad \overline{OP} + \overline{PQ} + \overline{QR} + \overline{RS} = \overline{OS} \quad \text{など .}$$

2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  に対して  $\vec{a} + \vec{x} = \vec{b}$  を満たすベクトル  $\vec{x}$  を  $\vec{b}$  から  $\vec{a}$  を引いた差 difference といい,  $\vec{b} - \vec{a}$  で表わす .

$\vec{a} = \overline{OA}, \vec{b} = \overline{OB}$  のとき,  $\overline{OA} + \overline{AB} = \overline{OB}$  であるから,  $\overline{AB} = \overline{OB} - \overline{OA} = \vec{b} - \vec{a}$  である .  
また,  $\overline{AB} = \overline{AO} + \overline{OB} = (-\overline{OA}) + \overline{OB} = \overline{OB} + (-\overline{OA})$  であるから,  
 $\vec{b} - \vec{a} = \vec{b} + (-\vec{a})$  が成り立つ .



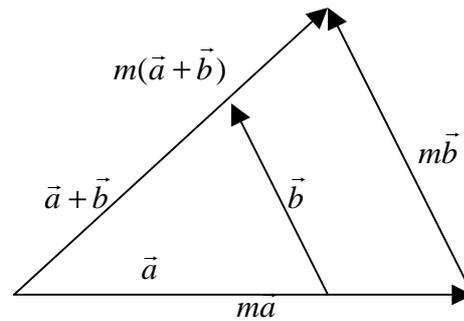
実数(スカラー)  $m$  とベクトル  $\vec{a}$  について、**スカラー倍** scalar multiplication  $m\vec{a}$  ( $\vec{a}$  の  $m$  倍) を次のように定める .

$m\vec{a}$  の大きさは  $\vec{a}$  の大きさの  $|m|$  倍で、 $m\vec{a}$  の向きは  $m > 0$  のときは  $\vec{a}$  の向きと同じで、  
 $m < 0$  のときは  $\vec{a}$  の向きと逆である。  $m = 0$  または  $\vec{a} = \vec{0}$  のときは  $m\vec{a} = \vec{0}$  とする .

定義から  $1\vec{a} = \vec{a}$ ,  $(-1)\vec{a} = -\vec{a}$ ,  $(-m)\vec{a} = m(-\vec{a}) = -m\vec{a}$ ,  $|m\vec{a}| = |m||\vec{a}|$  である.

すべての実数  $m, n$  とすべてのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  について, 次の基本性質が成り立つ.

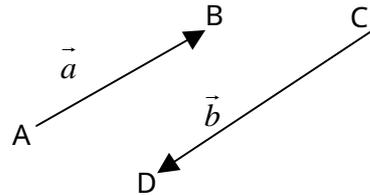
$$m(n\vec{a}) = (mn)\vec{a} \quad (m+n)\vec{a} = m\vec{a} + n\vec{a} \quad m(\vec{a} + \vec{b}) = m\vec{a} + m\vec{b}$$



零ベクトルでない2つのベクトル  $\vec{a}, \vec{b}$  について,

$\vec{a} = \overrightarrow{AB}, \vec{b} = \overrightarrow{CD}$  とおく. 線分  $AB, CD$  が平行

であるか重なっているとき,  $\vec{a}$  と  $\vec{b}$  は**平行** parallel であるといい,  $\vec{a} // \vec{b}$  で表す.



$\vec{a} \neq 0, \vec{b} \neq 0$  のとき

$\vec{a} // \vec{b} \Leftrightarrow \vec{b} = m\vec{a}$  となる実数  $m$  が存在する.

$\vec{b} = m\vec{a}$  で  $m=0$  の場合を許して,  $\vec{0}$  はすべてのベクトルと平行であると考える.

ベクトル  $\vec{p}$  がいくつかのベクトルたち  $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \dots, \vec{a}_n$  を用いて,  $\vec{p} = k_1\vec{a}_1 + k_2\vec{a}_2 + \dots + k_n\vec{a}_n$  のように表せるとき,  $\vec{p}$  は  $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \dots, \vec{a}_n$  の**1次結合** linear combination であるという.

複数のベクトルを呼ぶとき, ベクトルたちという方が分かりやすいが, 日本語では単数と複数の表現をあいまいにすることが多々ある. 今後も“たち”は時に省略される.

いくつかのベクトルたち  $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \dots, \vec{a}_n$  について,

$$k_1\vec{a}_1 + k_2\vec{a}_2 + \dots + k_n\vec{a}_n = \vec{0} \Rightarrow k_1 = k_2 = \dots = k_n = 0$$

が成り立つならば, これらのベクトルたち  $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \dots, \vec{a}_n$  は**1次独立** linearly independent であ

#### 4 第1章 ベクトル

るという。そうでないとき、**1次従属** linearly dependent であるという。

従って、 $\vec{a}_1, \vec{a}_2, \dots, \vec{a}_n$  が1次従属とは、 $k_1, k_2, \dots, k_n$  の中に少なくとも1つは0でない

ものがあって、 $k_1\vec{a}_1 + k_2\vec{a}_2 + \dots + k_n\vec{a}_n = \vec{0}$  が成り立っていることである。

これらの概念は、線形構造の中でも最も基本的であり、本質を十分理解することが肝要である。なお、複数のベクトルを「ベクトルたち」と表現したのは、英語で名詞に単数・複数の区別をすることに対応している。

幾何ベクトルたち  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  について

$\vec{a}$  が一次独立である  $\Leftrightarrow \vec{a} \neq \vec{0}$

$\vec{a}, \vec{b}$  が一次独立である  $\Leftrightarrow \vec{a}, \vec{b}$  は平行でない

$\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  が一次独立である  $\Leftrightarrow \vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$  は同一平面上にない

#### 練習問題 1.1

- (1) 2つの幾何ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が等しいとはどんなことか。
- (2) 2つの幾何ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  について、 $\mathbf{a} + \mathbf{b}$  はどんなベクトルであるか。
- (3) 始点が A である3つの幾何ベクトル  $\overrightarrow{AB}, \overrightarrow{AC}, \overrightarrow{AD}$  について

$$(\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{AC}) + \overrightarrow{AD} = \overrightarrow{AB} + (\overrightarrow{AC} + \overrightarrow{AD})$$

であることを図を描いて説明せよ。

- (4) 4つの幾何ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}, \mathbf{d}$  を2つずつ括弧をつけて加える方法は全部で5通りあることを示し、これらがすべて等しいことを結合律で示せ。
- (5) すべてのスカラー  $m$  について  $m(\vec{a} + \vec{b}) = m\vec{a} + m\vec{b}$  を証明すること。
- (6) 1つの平面には、3つの1次独立な幾何ベクトルは存在しないことを示せ。
- (7) 平面上の任意の幾何ベクトル  $\mathbf{c}$  は平行でない2つのベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b} (\neq \mathbf{0})$  の1次結合で表されることを示せ。

1次結合・1次独立・1次従属の概念の練習問題は(ベクトルの記号が代えてあるが)この章の最後にある。